

リサイクルプラザネットワークの設立に向けて — 発起人会座談会 —

日 時：平成 31 年 3 月 6 日 14:00～17:00

場 所：多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター エコにごセンター

〒206-0035 東京都多摩市唐木田二丁目 1 番地 1

参加者:

江尻京子	エコにごセンター センター長（多摩ニュータウン環境組合）
長内隆久	豊田市環境学習施設エコット 事務局長
東飛郎	札幌市リサイクルプラザ統括（リサイクルプラザ宮の沢）
宮良弘子	アースの会代表（エコマール那覇プラザ棟）
大澤正明	NPO 法人生活環境ネット C&C 代表理事

「2R 推進を目的としたリサイクルプラザ強化事業」の成果と課題

大澤：地球環境基金から助成を得て、3年間に亘ってリサイクルプラザの活性化を目的とする事業を実施しました。具体的には関係者に集ってもらった研修会を3回開催し、市民アンケートを実施し、最終的に運営マニュアルにあたる2種類の報告を作成しました。これによって、現在のリサイクルプラザの課題を抽出し、今後の目指すべき方向とそれを実現するために行政や運営団体が具体的に留意すべき点について明らかになったと考えています。しかし、これが将来に亘って継続することができるかというところとちょっと自信がありません。一過性のもので終わるのではないかと不安があります。幸い、この3年間で、多くの熱心な活動家に出会うことができました。その方々にこの事業の成果を引き継いでもらいたいと思ってお集まりいただきました。これからどのようなネットワークを築いていったらいいのか語っていただきたいと思っています。

大澤：江尻さんにはこのプロジェクトの一番最初の委員会で講演していただきました。その成果は事例集（リサイクルプラザの今とこれから）pp97-99に収録しています。

江尻：先日、大澤さんからちゃんとしたホームページを作るのは予算的には無理にしてもなんとか全国の活動家がネットでつながるような形を考えてもらえないだろうかという相談されました。その結果、札幌・東京・愛知・那覇というように全国バランスよく皆さんお集まりいただきました。

大澤：東さんの「リサイクルプラザ宮の沢」は交通の利便性はいいのですが、狭いという制約があって、月のうち日を分けてリペア事業をやったり体験事業をやったりと工夫されているのが印象的でした。この結果は事例集（リサイクルプラザの今とこれから）p66に取り上げています。

東：環境学習施設の方々が集まる場には極力出ようと思っています。先日、江尻さんの所を見学させていただきましたし、長内さんのところもインタープリターにすごい力を

入れられているのが印象的です。宮良さんのところには行ったことがないのですが HP で調べてきました。こういう機会は大変有効だと思っています。

大澤：長内さんの豊田市環境学習施設エコットは2年目の2回目の研修会場としてお願いしました。また、宇都宮市の研修会ではインタープリターの制度を紹介していただきました。

長内：先日、エコットのインタープリター13期生の3回の育成講座が終わったところで、今まさに実施訓練中なのですが、今年は12名の方が誕生しました。特に30歳台の若い男性が申し込んでくれたので、ありがたいと思っています。ただ、多くなりすぎるとインタープリター同志、インタープリターと事務局のトラブルも出てくるので、それが頭の痛いところですよ。

大澤：宮良さんが代表をされている「アースの会」は古くからお名前だけは知っていて、佐賀市の研修会で参加者の中にお名前を拝見した時はたいへん嬉しかったです。

宮良：良い集まりだったと思います。行政の人もいたし、たまたま私達が佐賀に行った時、目の前に座っていたのが宮古島の方だったんです。これから宮古島がリサイクルプラザを作るからということであらうしていらしたのですが、その後、去年、このメンバーが私達の所にいらして、作るにはどうしたら良いかと。箱ものは出来るけど、人間だよ、人だよと話して帰られました。先月も、石垣島にも新しく出来るので、石垣島を請け負っている業者と職員が来られて、やっぱり人だなと、地域の人をどうやって育てて運営できるかというのは、やっぱり行政の一番の課題なんだなと思いました。

食器ネットワーク

宮良：リユース食器ネットワークというのに入っています。事務局が得た情報が流れてきます。年間に食器をどのくらい貸したか、どういうイベントを何回やったか等々。食器の貸出はいろんな問題があるので、そういう問題を出し合ったこともあります。

江尻：リユースではなくて食器リサイクル全国ネットワークというのもあるんです。陶磁器の食器を回収して、それをまた陶磁器の食器に変えていくという、リユースではなくてリサイクルですね。どこでどんなイベントをやっているとか、こんなことが問題になっているとか、あそこはうまくいっているとか、こんなものを買いたいけれどどうしたら良いかとかいうようなことで、ネットワークの団体に所属している人がメーリングリストに登録して、やり取りをしています。運営は年会費1,000円で、団体は1万円です。いわゆる環境系ではないんですけども、Facebook を使って写真を提供している例もあります。チラシなども画像で送れるので、そういう方法もあるのかなと思います。

イベントあれこれ

東：映画とトークを掛け合わせたエコトーク映画会というのを10年ぐらいやっています。また最近SDGsを謳っているセミナーとか講演会がすごく多い。札幌市の職員さんで、自分で海外などへ行って少しずつ学んできたという人がいて、その人の講演をやったんですけど300人以上の人が来てくれたんですね。あとは、「海ごみ」というキーワードでお客さんがすごく集まるんです。2週間ぐらい前に「海ごみから見るプラスチック問題」という講演会をやったんですけど、200人定員の会場が満員になりました。2年前にやってすごく受けたのが「生前整理」、家の片付けをテーマにしたフォーラムなんですけど、会場に入れられない方もいたぐらいです。「遺品整理士認定協会」という全国の遺品整理業者を取りまとめている団体があって、その職員の方に来ていただいたんです。遺品整理というちょっとネガティブなイメージがあるの

で、敢えて生前整理という言葉を使って、片付けと生前整理で物を活用できますよという講座を開催すると人がたくさん集まります。

宮良：うちは1回だけやったことがあります。かなり前なので、「整理収納術」というキーワードでやりました。

東：65歳以上の方を対象にモニタリング調査をしたことがあって、「家の中の整理をしたいですか」「したいと考えてますか」「何が困ってますか」などという内容のモニタリング調査だったんです。皆さんが一番気に掛かるのが費用、一軒家で処分するのに最低10何トン出るらしいので、どれくらいお金が掛かるのかなということと、あと、思い出がつまっているもの多くて、処分するのが忍びないという方が大勢いました。そのため二の足を踏んで片付けが中々進まないという方が多い。

検品の難しさ

江尻：エコにごセンターでは家具などの販売もしてるんですが、全部清掃工場ルートなんです。直接の受け取りは一切しないです。持ち込み出来るのは構成市の人達が住んでいる所の食器類と工作で使うコルクとテラサイクルがやっている歯ブラシのリサイクルそれと、割りばし。炭焼きをしている仲間がいるので、そこで炭にしておけばごみにしてそのまま捨てるより少しはましだろうということをやっているのですが、持ち込めるのはそれだけなんです。そうしないと、ここに持ってくればタダだからとごみ捨て場になっちゃうんです。特に有料化してから市民はタダに敏感です。

長内：検品という作業がめっちゃめっちゃ大変ですよ。

江尻：大変ですよ。

東：大量持ち込みの場合は、その場で検品って難しいんですよ。だから、うちは持ち込みの方には必ずお名前、住所、電話番号を書いていただいています。後で検品しますので、何かお返すものがありましたらご連絡いたします。面倒くさいなという方には待っていただくし、それで良いという方はお帰り頂いています。

ただ、それで返したことというのはあまりないですよ。また来ていただく手間もあってざっと見て多そうだなと思う方はちょっと待って頂きます。検品はかなり大変です。

江尻：うちの食器もそうですよ。綺麗でないとダメ、埃が付いてもダメ、業者とそういう約束をしています。例えばうちから出すものは絶対にごみにしないと約束していることもあるので、持ってくれば全部1つずつ検品をするんですけども、きれいの尺度が人によって違うのです。それで職員が考えたのが、その場でご飯を食べられる、お茶を飲めるということを基準にしましょう。そう言ったら、凄い埃があっても食べられるという方がいて。喧嘩することが目的ではないので、次からは洗って持ってきてくださいと言ってトラブルを防ぎました。

宮良：私達もそうです。ひどいものを持って来て、それを言うと怒る。こういうトラブルのほうが多いので、もういいかと思って引き取ってしまう。

啓発施設の転換期

東：啓発施設も、啓発だけだと限界が来てるなと最近ちょっと思います。時々、何のためにこの事業をやっているんだと思う時もあったりして、そういう本音の部分語り合う場が欲しいと思います。

宮良：私達もちょっとマンネリ化してるというのがあるので、最初、平成7年に那覇市にリサイクルプラザが出来て、平成9年からはずっと私達がやっていますが、あの頃はまだリサイクルという意識がそんなになかった時代だったので、これも出来る、あれ

も出来ると楽しかったのですが、今はもう、ほとんどが出来ている状態で、衣装の貸し出し、服を買う人、家具を買う人、こういうリサイクルショップ化と講座に来る人達の顔が固定化されていますし、あるいは手作りの物を作ったり、そういうカルチャーセンター化になってるといふジレンマがあります。

東：布草履教室などをやっても、ごみを増やしてるだけなんじゃないかとか。しかし、施設としては人を呼ばないとダメなんですよ。また、指定管理の場合は4～5年と期間が決まっています、次に入札を落とせなかったらと考えることもあります。

ネットワークの必要性和方法

大澤：こういう情報交換をしているときりが無いのですが、つまりこういう情報を語り合う場が作れないだろうか。私がプロジェクトでやったような研修会に参加するための費用を潤沢に確保することは難しい面があるでしょうから、ネットで気軽に語り合える場があったらいいと思うのですが。

江尻：まずはメーリングリストという方法があります。誰かが管理者になって、そこにアドレスを登録しておいて、その管理者が送ったらそれを仲間たちが見ることが出来るシステムですね。顔が見えていると間違ってるよと言えますが、名前だけ知ってる人がメンバーになっているとそれで争いが起こったりとか、1人に言いたかったのを間違えてメーリングリストに送って、それで大げんかになったとか。

宮良：写真を載せるならFacebookのほうがいいかもしれません。

大澤：ホームページはどうか。データを載せるなら、ホームページが有効でしょうが。

東：ネットサーフィンを時々するんです。全国のリサイクルプラザを見て、おもしろそうだなと思った活動は参考にします。こういう風にすればもっと面白いのではないとか、お互いに高めあう場になればと思います。ホームページだけだと本音で話せないという面があるので、Facebookとの二段構えにするのはどうでしょうか。できれば、もっと深いところの話をしたいと思います。

江尻：ホームページは100%オープンになってしまいますからね。

大澤：団体名はどうしましょうか。

東：私の所はリサイクルプラザでやっていますから、「リサイクルプラザネットワーク」で違和感はありません。

長内：私も任意団体「リサイクルプラザネットワーク」でいいと思います。

江尻：今日みたいに本音で話ができたり情報交換ができる場になればいいと思います。

長内：設立趣意書のようなものが必要だと思うのですが、「本音」というキーワードを入れてほしいと思います。

東：いろんなジレンマを話し合っ、それを共有できるような。

宮良：次にパトタッチができるのだろうかという不安、こういうことを他の人がやれるのだろうかというジレンマがあるので、そういうことも語りたいですね。

大澤：これから、この輪をどういうふうに広げていくかということですが、今回全国の施設一覧を印刷したので、その方々にお送りするというのも一つの方法ではあるとおもうのですが、調べてみてわかったのですが、メールアドレスをホームページ上で公開していない施設が結構多いんです。

東：ある程度面識がないと、本気にされないという面がありますね。

宮良：まずは知っている人に声をかけて。

大澤：少しずつ広げていくということにしましょうか。後先になりましたが、「リサイクル

「プラザネットワーク」の発起人になっていただけるということでよろしいでしょうか。
一同：了解。

大澤：また、発起人代表は、東京在住で豊富なご経験を持たれている江尻さんをお願いするということでよろしいでしょうか。

一同：了解。

大澤：それでは、私も側面からになるかと思いますが、可能な限りご協力させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

＜了）